

心理教育的エクササイズ的设计・試行体験の評価と体験過程

—保育士を対象とした支援的取り組み—

Evaluation and Experience Process of a Design and the Trial Experience of Psychoeducational Exercise
—Support Activities Intended for the Nursery Teachers—

有沢孝治

Koji ARISAWA

東海大学

TOKAI UNIVERSITY

Key words : 心理教育的エクササイズ的设计と試行、参加者の体験過程と評価、保育士支援

目的

平成18年より「認定こども園」制度がはじまり、子どもの保育・教育・子育て支援を総合的に提供する施設が増えてきている。こうした流れの中で保護者対応に寄与する保護者との関係を深める取り組みや、子どもの心理的成長を促す教育的視点を取り入れた展開などが求められていると考える。こうした取り組みの一方途として、保育士による対象者の状況やニーズに配慮した心理教育的なエクササイズ（以下Exとする）の設計・試行が挙げられる。しかし、こうした活動に保育士自身が否定的であれば実効性は乏しいだろう。そこで本論では、心理教育的なExの設計・試行体験を保育士がどのように評価するかを検討する。

方法

20XX年に保育関係者40名を対象に心理教育的なExの設計・試行を行った。全参加者にとってExの設計・試行体験は初めての体験であった。本論では参加者の内、研究協力が得られたA園勤務の15名の保育士によるアンケート（気づいたこと、考えたこと、感じたことの自由記述、事後にA園が実施後日筆者に提供）結果について体験過程と評価の観点から分析・検討する。この活動の概要は次の通りである。はじめに心理教育の説明とExの設計方法の参考例を示し、その後Exのモデルとして関係の促進や自己理解を目的としたExを体験する。その後4名一組の小グループになり、Exの設計と設計したExの試行を行い、最後にシェアリングとまとめを行うという内容である。時間は6時間である。

結果と考察

自由記述に頻出する主なワードを表1にまとめた。これ以外でも「不安」（13.3%）、「恥ずかしい」（6.7%）などがあった。

表1. 自由記述の主なワード

ワード	%	コメント例
考える(た)	73.3	ねらい、配慮などを自分たちで考えるのは大変だった。
楽しい	46.7	楽しみながら多くのことを学んだ。
難しい	46.7	Ex.設計はとっても難しいのではとはじめため息が出た。
面白い	20.0	(Exの)案を出し合うのは少し面白かった。

また、記述内容から参加者の次のような体験過程を見

出した(図1)。「初対面の人たちとの話し合いへの不安」や「Exを創ることへの不安」があり、その後「難しさ」、「大変さ」、「焦り」、「失敗への恥ずしさ」と「多様なアイデアと各自の経験の開示及び共有」が行き交い、「考えたこと」を「試しにやってみる」という試行錯誤を経て、「徐々に自然体で交流できるようになり、楽しい体験」となったようである。このようにして設計したExは、「面白い」、「試してみたい」内容になったと感じた者もいた。さらに「小グループでExを設計する意義」、「達成感」、「うれしさ」、「Exへの愛着」なども述べられており、これらはExの設計過程での協働模索の結果といえよう。

Exの試行体験では「こういう目的の時にはこんな活動が効果的なのかということを経験」でき、「保育に活用したい」という感想があった。心理教育的Exの設計と実践の保育への活用期待が示唆されていると考える。

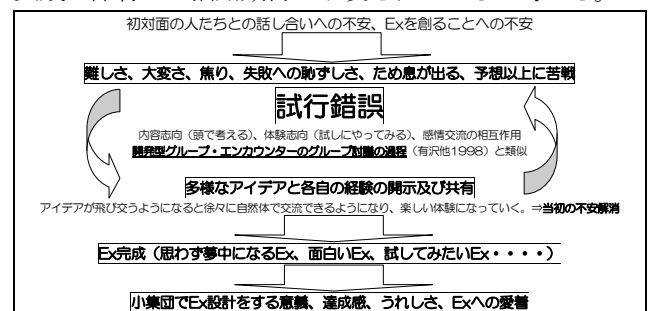


図1. Exの設計体験における参加者の体験過程

以上のことから保育士による心理教育的なExの設計と試行は概ね肯定的に評価されたと考える。また、この一連の体験から期待できることとして、①保育活動に活かせる多様な考えが共有できる、②保育に活用できる教育的ツールを増やせる、③Exに対する愛着と内容の熟知から熱心で適切なファシリテートができるようになる、などが考えられる。これらの点からExの設計と試行の体験は保育士支援になりえると考える。

参考文献

有沢孝治・山本銀次・館見史1998「開発型グループ・エンカウターの模索と成果」『東海大学紀要 教育研究所』No.6, pp.41-59